

鈴木鎮一と 音楽の近代

symposium

近代メディアは
音楽文化に
何をたらした
のか

—SPレコード音源と
その社会文化的背景の検証を通じて—

2023年10月21日(土)

13:00-18:00

東京藝術大学音楽学部 第6ホール

入場無料

13:00-13:25 I. イントロダクションと問題提起

「レコードを通して師事する」

—近代メディアの出現と新しい演奏家形成のかたち—
大角 欣矢 (東京藝術大学音楽学部教授)

13:25-14:40 II. 録音音源研究—演奏家としての鈴木鎮一を巡って

音楽研究における情報機器の使用について

—音高分析を中心に—

丸井 淳史 (東京藝術大学音楽学部教授)

鈴木クワルテットとヨアヒム四重奏団の伝統

—モーツァルト《弦楽四重奏曲第15番ニ短調 K421》

メヌエット楽章の演奏録音を中心に—

太田 峰夫 (京都市立芸術大学音楽学部教授)

ソニック・ヴィジュアルライザーによる演奏分析

—鈴木鎮一、ジャック・ティボー、カール・クリングラーの比較—

甲斐 朝花 (東京大学大学院総合文化研究科博士課程)

14:40-14:50 休憩

14:50-16:05 III. 音楽文化史研究—鈴木鎮一とその時代

鈴木鎮一と父・政吉 (鈴木バイオリン製造創業者)

—近代日本のヴァイオリン受容—

井上 さつき (愛知県立芸術大学名誉教授)

少国民と総動員—鈴木鎮一の「才能教育」をめぐって—

片山 杜秀 (慶應義塾大学法学部教授)

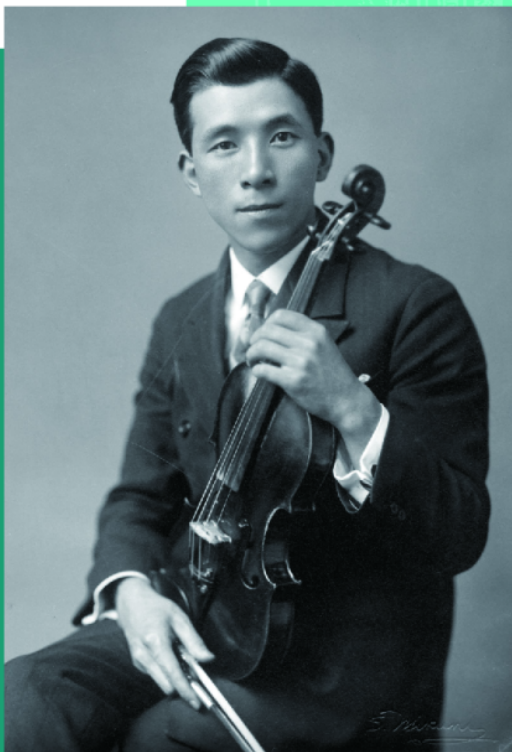
昭和戦前期のメディア空間と鈴木鎮一

渡辺 裕 (東京大学名誉教授)

16:05-17:00 ディスカッションとコーヒーブレイク

17:00-18:00 IV. SPレコード・コンサート

※東京藝術大学附属図書館蔵「ピクトローラ・クレデンザ」等使用
予定曲目 フランク《ヴァイオリン・ソナタ》イ長調より 抜粋
(ジャック・ティボーや鈴木鎮一による演奏) その他



鈴木 鎮一(1898~1998)は、いうまでもなくスズキ・メソードの創案者として世界的に有名な日本のヴァイオリニスト・音楽教育家であり、その教育の理念や方法については数多くの研究がなされてきました。しかし、彼の音楽家としての自己形成過程や演奏スタイル、そしてそれがメソードの形成に及ぼした影響などについては、十分な検討がなされてきたとはいえません。

彼の演奏技法は、最初の師である安藤 幸やベルリンで師事したカール・クリングラーなど、ヨーゼフ・ヨアヒムの系譜に連なる「ドイツ風」の伝統に基盤を置くものでしたが、その一方で彼が生涯模範と仰いだのはクライスラー、ティボー、カザルスといった、より新しい流れを代表する奏者たちでした。注目すべきは、そこにおける「レコード」という新しいメディアの介在です。そこから見えてくるのは、新興のテクノロジーをいち早く活用することで従来の徒弟制度的なヨーロッパの演奏文化を乗り越え、一つの流派に回収されず、国や地域に縛られない演奏家形成の新しいかたちを生み出すに至った、一人の日本人音楽家の姿です。

本研究プロジェクトは、多数の歴史的音源を擁する東京藝術大学附属図書館の SP レコード集成「野澤コレクション」を活用し、鈴木 鎮一及び彼に関連する奏者たちの音源をコンピューターを用いて分析するとともに、鈴木を取り巻く日本の音楽文化やその社会文化的文脈にも光を当てることで、スズキ・メソード誕生の背景や、それがもつ歴史的意義に関し新たな像を素描することを目指しました。



クリストファ・N・野澤氏旧蔵蓄音機「ビクトローラ・クレデンザ」
(東京藝術大学附属図書館蔵)

鈴木 鎮一と 音楽の近代

symposium

主催：科研費基盤研究(B)
研究課題「20世紀前半のヴァイオリン演奏様式の包括的研究
——野澤コレクションを活用して」(課題番号 18H00636)
研究プロジェクトチーム(研究代表者：大角 欣矢)
協力：東京藝術大学附属図書館
問い合わせ先：東京藝術大学音楽学部楽理科 大角研究室
(〒110-8714 東京都台東区上野公園 12-8)